

表-10 幼児教育保育学科 履修系統図(図形式)

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。  
 教育理念 自立・創造・真摯  
 教育研究上の目的 1.幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。  
 2.1.の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。  
 3.1.の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることで豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		1 年次 春semester		1 年次 秋semester		2 年次 春semester		2 年次 秋semester	
		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数	
現代社会を多面的に把握して、主体的に生きる知恵としての教養を身につける教授内容で構成する。	学びの意味を考え、学びの基礎を身につける。	現代教養講座	心の充実 心の充実(講)・2 ※1科目2単位必修						
	文学・歴史・芸術・ことばについて考える。		思想と文化 思索と思潮(講)・2 /文学の世界(講)・2 /歴史の認識(講)・2 /色彩論(講)・2 /ことばとコミュニケーション(講)・2 /芸術の世界(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
	経済・経営・生活・教育・法律を考える。		社会と人間 企業と経営(講)・2/教育と発達環境(講)・2 /法と個人(講)・2 /スポーツ論(講)・2 /経済と暮らし(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
	環境・情報・健康・科学・教理・心理を考える。		情報と科学 環境と情報(講)・2 /健康と科学(講)・2 /教理と論理(講)・2 /心理学(講)・2 ※1科目2単位選択必修						
乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくために、「教育の本質と目的」「教育の対象の理解と方法」「保育内容の研究」「保育者の知識と技能」と、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。	保育者に求められる、教育・保育の本質、基礎・基本を広い視点から多面的に学ぶ。	教育の本質と目的	必修	教育原理(講)・2	社会福祉論(講)・2		保育者論(講)・2		
			選択	日本国憲法(講)・2 保育社会学(講)・2 児童家庭福祉論(講)・2 保育原理(講)・2	社会的養護(講)・2	教育史(教育制度を含む)(講)・2	相談援助(演)・2 児童家庭福祉方法論(演)・2		
	乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	教育の対象の理解と方法	必修	発達心理学Ⅰ(講)・2	教育心理学(講)・2	臨床心理学(演)・1 子どもの食と栄養(演)・2	発達心理学Ⅱ(演)・2 カウンセリング(演)・1 家庭支援論(講)・2		
			選択	障害児保育(演)・2	障害児援助技術(演)・1 教育課程論(講)・2 乳児保育(演)・2	子どもの保健ⅠA(講)・2 乳児保育の実際(演)・1 保育指導法(演)・1	教育方法論(教育工学を含む)(講)・2 子どもの保健ⅠB(講)・2 子どもの保健Ⅱ(演)・1		
	乳幼児の発達に即して全領域を総合的に実践していく力を身につける。	保育内容の研究	必修		幼児と健康(指導法)(演)・1 幼児と音楽(指導法)(演)・1	保育内容総論(演)・2 幼児と環境(指導法)(演)・1 幼児とことば(指導法)(演)・1 幼児と絵(指導法)(演)・1			
			選択	教育実習(事前事後の指導を含む) 保育実習指導Ⅰ(施設)・保育実習Ⅰ	教育実習(事前事後の指導を含む) 保育実習指導Ⅰ(施設)・保育実習Ⅰ  生活と遊び(指導法)(演)・1 ことばの教材(指導法)(演)・1	教育実習(事前事後の指導を含む) 保育実習指導Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅱ・保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ  幼児と運動(指導法)(演)・1 リトミック(指導法)(演)・1 社会的養護内容(演)・2	教育実習(事前事後の指導を含む)  造形表現(指導法)(演)・1 幼児音楽教育法(演)・1 保育相談支援(演)・1 保育・教職実践演習(幼稚園)(演)・2		
	保育を实践する上での基礎的・基本的な知識と技能を学び身につける。	保育者の知識と技能	必修	国語(講)・2 音楽の基礎(演)・1 器楽Ⅰ(演)・1 平面美術構成(演)・1 基礎体育Ⅰ(演)・1	声楽Ⅰ(演)・1  器楽Ⅱ(演)・1 立体美術構成(演)・1 基礎体育Ⅱ(演)・1	声楽Ⅱ(演)・1	総合体育(実)・1		
			選択	児童文学(講)・2 身体活動論(講)・2 英会話Ⅰ(演)・1 コンピュータ演習Ⅰ(演)・1	児童文化(言語表現)(演)・1  英会話Ⅱ(演)・1 コンピュータ演習Ⅱ(演)・1	課題研究(演)・2 器楽Ⅲ(演)・1	課題研究(演)・2 器楽Ⅳ(演)・1 合唱Ⅰ(演)・1 合唱Ⅱ(演)・1 手作り玩具(指導法)(演)・1		

卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

**1. 知識・技能**  
 人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指すため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。

**2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力**  
 幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。

**3. 論理的思考力・課題解決力・創造力**  
 幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。

**4. 自律性・協働性**  
 ・幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。  
 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。  
 ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。

現代教養講座							学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)								
科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題(授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標(到達目標)	学年	春	夏	秋	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
												人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指すため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有しています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができます。 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができます。 ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけています。
心の充実		心の充実	講義	2	1.建学の精神を学び、授業や社会との関わりを通して、自分なりの教育観や人間性の形成につなげていく。 2.授業を通して、豊かな人間性および基礎的な知識・技能、自己研鑽に励む態度などを身に付ける。	授業を通じて、普段当然だと思っていること、知っていないがよく分からないことなどを明確に意識することで、常磐短期大学で「なぜ」学ぶのかを認識する。	1. 大学生であることの意味を理解し説明できる。 2. 常磐短期大学生であることの明確な自覚を持ち説明できる。 3. 短期大学で学ぶための基礎的な知識・技能を修得できる。 4. 大学生としての社会的な役割を理解できる。 5. 生きるための精神的な充実を体験し説明できる。	1	○			◎		●	
		思索と思潮	講義	2	世界情勢から現代に思想性を探る。	国内外で起きている事象の背景にある思想性を検証する。	日々の膨大なニュースから本質を見抜く習慣を身につけ、現在の社会問題について説明できる。	全	○			●			
思想と文化		文学の世界	講義	2	日本の古典作品を読み、そこに現れる物語・思索・詩情・地誌的記述等をたどることで、当時の人々の文化・風習・考え方を学ぶとともに、人間共通の根本的あり方をさぐり、異文化理解や人間的成長の基盤を形成する。	1. 過去(古典世界)と現代とを結ぶ、共通点 2. 伝統文化や古典の現代への影響 3. 風土・思想の継承と現代	1.文学を通じて人間の根本的あり様についての理解を深めることができる。 2.日本の伝統的な文化・思想への理解を深めることができる。 3.古典文学に親しみを持ち、その面白さを味わい、幅広い教養・多面的視野を身に付け説明できる。	全	○			●		○	
		歴史の認識	講義	2	授業は、「世界の歴史」と「地域(茨城県)の歴史」との二展開で行う。 【世界の歴史】 個別の食材の歴史から宗教と食の関係、食に対する考え方の違いなど様々な例を挙げながら世界の歴史を考える。 【地域(茨城県)の歴史】 地域文化論として、知られざる茨城の姿を理解する。	【世界の歴史】 身近な食を通じて、次の観点から世界の歴史を考える。 ・食べ物と歴史と人々が生きてきた歴史との関係 ・食材の歴史、国や地域によって異なる食文化、食に対する考え方の相違点 【地域(茨城県)の歴史】 ・茨城県の過去・現在を郷土出身の偉人の業績を通じて明らかにすること。 ・歴史的に闇の時代といえる幕末維新時の水戸藩政治史に光を当てること。 ・文化的側面から多様に検証すること。	【世界の歴史】 1.身近な食という事例から、私たちが取り巻く世界を理解できる。 2.世界の食の歴史を認識することで、自分と世界とのつながりを考える力を身に付けることができる。 【地域(茨城県)の歴史】 1.一般常識として、茨城県の実像について理解し説明できる。 2.自分と郷土とのつながりを考える力を身に付けることができる。	全	○			●			
		色彩論	講義	2	色彩と日本の文化に関する内容を扱う。	色はその時々々の文化に大きく影響され、また影響を与えてきた。日本の各時代における色彩の文化を概観する。	日本の各時代における特徴的な色彩について学ぶことにより、日本人固有の感性を把握し、さらに他の国々との関わりや相違を把握することができる。	全				◎		○	
		ことばとコミュニケーション	講義	2	映画を教材として世界の歴史を学び、あわせて映画に出てくる英語表現を身につける。	始めに映画の舞台となった歴史背景を取り上げ、映画ではどのように描かれているのかを学ぶ。次に映画に出てくる印象的な英語表現を習得する。	1. 映画の舞台となった歴史背景について学ぶことを通して、世界史の知識を理解できる。 2. 生きた英語表現を活用できる。	全	○			◎	●	◎	
		芸術の世界	講義	2	舞台音楽、特にミュージカル音楽に焦点を当て、作品、ストーリー、歴史、芸術性について理解を深める。	ミュージカル映画を中心に取り上げ、作品の背景や原作についての知識を深めながら鑑賞する。	1. ミュージカル音楽についての知識を深める。 2. 作り手、演じ手の想いや意図を読み取ることができる。	全	○			●	○	◎	○
社会と人間		企業と経営	講義	2	自分らしく働くための企業論	主体的なキャリアデザインや就職活動の実現、さらには納得いく労働生活を営むために有益な知識・情報を提供して、「自分らしい働き方」を考える契機とする。	1. 新聞や経済誌の記事を読んで自分の考えをまとめることができる。 2. 常識や慣行、制度を批判的に検討し、自分の意見や考えを提示できる。 3. データやグラフから正しい情報を引き出すことができる。	全	○	○		◎			
		経済とくらし	講義	2	「地域産業論(職業の世界—キャリア形成と人材教育(一般社団法人 茨城県経営者協会 連携講座))	「企業と経営」での学習内容を以下のように継続・発展させる。地域社会で活躍する経営者や管理者から直接学ぶことで、地域の経済・産業構造を理解し、社会人として必要な構えや資質・能力を育成する。	「企業と経営」での学習内容を以下のように継続・発展させる。 1. 地域の経済・産業構造を理解し、説明できる。 2. 地域に立脚した企業の経営活動を理解し、説明できる。 3. 地域社会に関わる際に必要となる知識、資質、能力を身につけて、実践できる。	2	○			◎			
		教育と発達環境	講義	2	ヒトは他の動物に比べると文明的な進化を遂げたが、ヒトも動物の一種であることに変わりはない。動物の子育てを知ることがヒトの子育ての問題や課題を明らかにする。	1.ヒトの子育ては動物の子育てとどこが似ていて、どこが違っているのかを知る。 2.さまざまな「モノ」の介在がヒトの子育ての特徴であることを知る。	1.ヒトと動物の子育ての違いから、子育ての今日的な課題を把握し、「モノ」の使い方に活用できる。 2.子育てには親子だけではなくそれを取り巻く環境が関わっていることを理解できる。	全	○			◎			

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解 能力・コミュニケーション 能力	3. 論理的思考力・課題 解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指していくため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有しています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけています。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができます。 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができます。 ・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけています。
		法と個人	講義	2	人の一生と法律との関わりを学習する。	生まれてから死ぬまで、各ライフサイクルにおける関連法の知識を具体例を通じて身につける。	生まれてから死ぬまで、どのような法律が関係するのかを具体例を通して理解し、説明できる。	全			◎	○	◎	
		スポーツ論	講義	2	女性のスポーツ参加を考える。	女性とスポーツとの関わりを歴史的な変遷と、スポーツにおける男女平等を阻む要因を中心に、女性のスポーツ参加を促進する方策を考える。	スポーツが、社会的な影響を受けながら発展し、変化してきたことを理解し、現代社会におけるスポーツについて説明できる。	全	○	○	●	○	◎	
情報と科学		環境と情報	講義	2	「環境」の概念、環境問題、環境思想、環境政策、環境教育政策、環境教育の事例、環境に関する子どもの認識、行動様式、環境教育の方法、情報化社会の問題と情報リテラシーについての基礎と現代的動向について学ぶ。	環境先進国における環境教育の展開、世界との比較で見た日本の子どもの環境意識・行動様式・知識等の現状と課題、環境思想の展開、環境問題に関する意思決定。	人類の生存にもかかわる環境にかかわる問題と関連の取組みについて基礎的多面的に理解するとともに、環境に優しい行動・実践を指針を得ることができる。	全	○	○	●		◎	
		健康と科学	講義	2	健康に過ごしていくための能力を「健康力」と呼ぶ。健康力をアップさせるために現代における「健康」に関する問題を理解し、その対策として「運動」という面からどのように対策していけば良いかを学ぶ。	現代における健康問題として、生活習慣病や肥満、喫煙等の問題を理解し、健康に過ごしていくための適切な運動方法について紹介していく。また、この年代の悩みの一つであるダイエットについても取り上げる。	「健康」をより深く、そして幅広く理解し、自身の現在、及びこれからの生活における健康力をアップさせ、それを実践するための力を身につけられる。	全			●		◎	
		数理と論理	講義	2	数学的センスの重要性	「数理と論理」の視点から、算数・数学について振り返り、つまづきや理解のコツを検討する。	「数理と論理」の視点から、算数・数学の重要性を理解し、日常の思考や行動に反映できる。	全	○		●		○	
		心理学	講義	2	心理学は、「こころ」を科学的に解明しようとする学問である。この授業では、心理学の理論や方法について深く掘り下げることせず、心理学の観点から、自分たちの身近に起きる出来事や問題について考えていく。カリキュラム・ポリシーにある、社会的現象への関心も深められると考える。そのために、心理学のなるべく広い範囲に渡って授業を展開する。	以下の心理学の領域について扱う。 ・社会心理学 ・発達心理学 ・知覚心理学 ・認知心理学 ・学習心理学 ・臨床心理学 ・性格心理学 ・神経心理学 ・感情心理学 ・進化心理学	1.自分たちの身近で起こっている現象、出来事、問題について、心理学の観点から考えることができる。 2.学んだ内容を実生活での自分の行動に当てはめて考えることができる。 3.教養を高め、物事を多面的な視点で観ることができるようになる。	全	○	○		●		◎



幼児教育保育学科授業科目							学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)							
科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題(授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標(到達目標)	学年	春セメ	秋セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を目指していくため、幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技術を有している。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、幅広い専門的知識および技能を活用し、物事を多角的に捉え、子どもたち一人一人の個性を把握しながら、コミュニケーションする能力を身につけている。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、新しい発想を取り入れながら、課題解決に向け真摯に取り組むことができる能力を身につけている。	幼児教育・保育に求められる多様な教育課題に対して、主体的・自律的に取り組むことができる。・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。・自らの考えを伝えながら、他者と円滑に協調・協働して取り組むことができ、人間関係形成能力を身につけている。
教育の本質と目的		日本国憲法	講義	2	日本国憲法の基本原理のうち、基本的人権を軸に憲法を概説し、併せて地方自治などの枠組みについても学ぶ。	1. 基本的人権に関する高度な理解 2. 選挙権および議院内閣制の理解 3. 地方自治/地方行政の理解	1. この国の理念・制度・しくみについて理解できる。 2. 社会人に必要な憲法の基本知識・時事的問題を整理・習得できる。 3. 選挙権を行使する際の国のしくみについて理解できる。	1	○	—	●		◎	
		教育原理	講義	2	教育に携わるものに求められる教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的、内容、方法の基礎と現代的動向について基礎的多面的に学ぶ。 特に、幼児の教育に重点を置いて学ぶ。	教育の営みの本質を踏まえ、歴史的展開と思想、制度と経営、教育内容と方法の基礎的事項と、現代の教育改革を主題として取り上げる。	教育の営みと本質について、基礎的多面的に理解するとともに、その現代的動向についても説明できる。	1	○	—	●	○	◎	○
		教育史(教育制度を含む)	講義	2	近代までは西洋教育史を中心に扱い、近代以降は日本教育史も考察の対象にして、義務教育を中心とする公教育の成立過程と、その意義を明らかにする。その際、教育の事象だけを抜き出して論じるようなことはせず、社会・経済史的な発展及び哲学史に関連づけながら、解説していく。 教育制度については、国民教育制度と教育行政の仕組みを扱う。	日本・英米等の事例に即しつつ、近代教育思想と教育史の展開を踏まえつつ、国民教育の成立と公教育制度の基本的仕組みを主題として取り上げる。	1. 主な教育者の業績を説明できる。 2. 西洋社会で教育主体が教会から国家へ移行していく経緯を理解できる。 3. 個人主義的教育が成立する経緯を理解できる。 4. 教育を受ける権利と義務教育の関係を説明できる。	2	○	—	●	○	◎	○
		教育制度・学校経営論	講義	2	本授業では、明治以来の日本の教育制度について理解するとともに、今日の学校教育の在り方について考える。具体的には、今後の日本における教育の意味や、地域・保護者との連携、児童の安全配慮について、自らが教師・保育者として役割を果たすべき意味について考察していく。	明治以降の教育制度について概括した上で、教育委員会制度の変遷や、脱学校論、フリースクール等の多様な教育機会について考える。また、多様な児童生徒についてや、幼稚園経営を題材に、教育経営について考える。	・公教育の原理及び理念を理解している。 ・公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 ・地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 ・学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。	2	○	—	●	○	◎	○
		保育社会学	講義	2	保育の営みを社会との関連からとらえる。講義を聴くだけでなく、学生自身が調べ、考え、議論することを通して能動的に学ぶ。 キーワード: 現代社会	・幼児期の保育と教育 ・段差と接続(小1アプロブレムと保幼小連携) ・ディベート(幼児期の英語教育、子どもの貧困、等)	1. 子育て支援、接続の問題について基本事項を理解できる。 2. 選択したテーマに関し調べをし、ディベートやジャッジの役割を果たすことができる。	1	○	—	◎	●	●	◎
		社会福祉論	講義	2	基本的人権を保障するための政策や活動として存在する社会福祉について、近年状況が急激に変化する日本における身近な課題を通して学ぶ。	1. 現代社会における社会福祉 2. 子どもの権利擁護 3. 子ども虐待と子どもの貧困	1. 社会福祉の歴史、制度、法体系、サービスを理解できる。 2. 現代の社会福祉の意義・理念・体制が理解できる。 3. 今日の課題と実践活動について理解できる。	1	—	○	●		◎	
		相談援助	演習A	2	保育・療育関係における相談援助について、実践に活用できる形で学ぶ。	1. 障害をめぐる世界的動向 2. 相談援助のプロセス 3. 相談援助の具体的事例	1. 「子育て」「子育て」の諸課題を理論的に位置づけられる。 2. 現場の課題解決に必要なソーシャルワークの知識・技術・態度を身に付けられるようになる。	2	—	○	◎		●	
		児童家庭福祉論	講義	2	保育士として理解しておくべき児童家庭福祉の基礎知識を概観し、保育士が子どもや家庭の福祉にどのように貢献するか考える。 キーワード: 子育て家庭、福祉	・子どもを取り巻く環境 ・児童家庭福祉の法体系、行政、実施機関 ・児童家庭福祉の施設とサービス	1. 現代日本が直面する児童問題の内容と背景を説明できる。 2. 当該分野で提供される施策と福祉サービスの概要を説明できる。 3. 「児童の権利」を説明できる。	1	○	—	●		◎	○
		児童家庭福祉方法論	演習A	2	児童家庭福祉の実践に資する知識と技能を身につける。	・相手の話を傾聴する技術 ・気になる子どものアセスメント ・個別の指導計画の作成方法	1. 傾聴の基本的態度を理解し実践できる。 2. アセスメントの流れを理解できる。 3. 架空事例の個別の指導計画を作成できる。	2	—	○	●	◎	●	○
		保育原理	講義	2	保育学の基本的な考え方や知識を習得する。	保育にかかわる様々なことについて、広い視点から捉え、確かめ、多様な考えに触れながら、保育者となるための土台を形成する。	1. 「保育」について、多様な側面から、読み、書き調べ、考察し、応用できる。 2. 「保育者になる」という心構えをもち、保育者としての自分をイメージできる。	1	○	—	●	●		
		保育者論	講義	2	子どもの発達や周囲の状況など様々なことが視野に入れながら、職務に当たる専門家としての保育者の在り方を考えていく。保育者の質の向上	1. 幼児を取り巻く環境や課題 2. 教育基本法や関連法の改正により、人格形成の基礎を培う幼児期の教育の重要性 3. 求められている幼児に対する教育の質の向上、保育者の資質向上	1. 保育者は、何をどのように考えて仕事を進めていくのか、保育者の在り方についての理解を深め、目標を高くして意欲的に学習することができる。 2. 保育の質の向上が求められていることを心にとめて、保育者として常に力量を高めようと意欲的に自ら考える力、洞察力・判断力、自己表現力、協働する力を身に付けられる。	2	—	○	●	●	◎	●

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しなが ら、コミュニケーションす る能力を身につけてい る。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り入 れながら、課題解決に 向け真摯に取り組むこ とができる能力を身に つけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自律 的に取り組むことがで きる。 ・自らの能力を高めるべ く、不断に自己研鑽に 励むことができる。 ・自らの考えを伝えなが ら、他者と円滑に協調・ 協働して取り組むこと ができ、人間関係形成能 力を身につけている。
		社会的養護	講義	2	様々な理由で家庭で養育を受けられない子どもを公的責任で社会的に保護養育することを「社会的養護」という。社会的養護の理念は「社会全体で子どもを育て」「子どもの最善の利益のために」ということである。 授業を通じて、保育士として必要な資質や専門性を学習していく。	1.社会的養護の法制度や体系、家庭に代わって支援にあたる児童福祉施設や里親制度、児童虐待の背景や虐待児の行動等を学ぶ。 2.児童の最善の利益のための自立支援や権利擁護について理解を深め、保育士として必要な視点を学ぶ。	1.社会的養護を必要とする子どもの現状や家族への理解を深め、具体的対応が習得できる。 2.社会的養護の制度と実施体系や関係機関との連携、児童福祉施設の実態と役割についての知識が習得できる。 3.児童虐待の背景や虐待への関心を深めることができる。 4.虐待児の心理や行動を学び、福祉的視点ばかりでなく、心理学的視点で対応すること、他の専門職と連携する必要性を理解できる。	1	○	●		◎		
		教育心理学	講義	2	子どもの学習及び社会的適応を支援するために、教師・保育者が何をすべきかを考える上での手がかりを身につける。 授業で学び考えることを通じて、自分なりの教育観を形成していく。 キーワード:学習, 学ぶ意欲, 個性の理解	幼児期の子どもの教育をすすめる上で必要な知識として、以下の5つのテーマについて学ぶ。 1. 発達と学び 2. 学習のメカニズム 3. 学ぶ意欲 4. 人間関係 5. 個性の理解 6. 発達障がい	1. 教育心理学に関する基礎的な知識を理解できる。 2. 子どもの視点と教師・保育者の視点の両方に立ち、どのような教育が望ましいのかについて考えることができる。 3. 物事を一面的でなく、多面的な視点で観ることができる保育者に近づくことができる。	1	○	●	○	◎	○	
		発達心理学 I	講義	2	胎児期および乳児期から幼児期の発達について基礎的な知識を学ぶ。毎回の問題提起について考え、子どもたちの安全と幸福のために何をすべきか判断する力を身につけることを目指す。 キーワード:発達	人間の発達の概要について理解したうえで、胎児期および乳児期から幼児期にかけて、以下の発達について学ぶ。 1. 身体と運動能力 2. 知覚と認知 3. 感情 4. ことば 5. 人間関係 6. 自己 7. 道徳性・社会性	1. 子どもの心と身体がどのように発達するのかについて、保育者として求められる基本的な知識を理解できる。 2. 子どもの発達に大人が及ぼす影響について学び、保育者として子どもたちにどのように関わることができるのかについて考えられるようになる。 3. 子どもたち一人ひとりの個性を把握し、保育・教育活動に反映できる保育者になることができる。	1	○	●	○	◎	○	
		発達心理学 II	演習	2	授業の前半は、発達心理学 I の授業では学びきれなかった内容について扱い、保育者として子どもの発達を支援する上で必要な視点について学ぶ。後半は、グループもしくは個人で演習問題について考える。 子どもたちの安全と幸福を第一に考え、そのために何をすればよいかを判断して行動する判断力と行動力を身につけることを目指す。 キーワード:発達, 支援	教科書には載っていない最新の発達心理学の知識に触れる。 発達心理学の知識が、保育現場でどのように生かされるのかについて、仲間との話し合いを通して考える。 主なテーマは以下の通り。 1. 環境 2. 人間関係 3. 学び 4. 生きる力 5. 発達課題 6. 保育者間の協同	1. 発達心理学 I で学んだ基礎的な知識を基に、実際の保育の現場で役立つ力を身につけることができる。 2. 子ども達が、保育現場で何を体験し学んでいるのか、保育者はどのようにそれを援助すべきであるのかについて、発達心理学の知識に基づいて考えることができる。 3. 様々なグループ活動を通して、人間関係調整能力を身につけ、誰とでも協働することができる。	2	○	●	◎	◎	◎	
		臨床心理学	演習	1	授業では、心理学の理論をもとに心の問題の理解と援助を行うことの重要性について解説する。皆で子どもの心理的問題や問題行動についてその背景にある原因やメカニズムを理解しながら、適切な対応を考えていく。 キーワード:評価, 問題行動, 相談	主なテーマは以下の通り。 ・心理テスト ・生活習慣に現れる問題 ・言語発達に現れる問題 ・情緒面に現れる問題 ・知的障がい児の理解	1. 幼児期の子どもの現れる様々な心理面・行動面の問題に対して正しい理解ができ、適切に対応できるようになるための知識と態度が身につく。 2. 調べ学習によって、自身の関心を広げ、仲間への発表によって、保護者に対して育児に関する的確な助言ができるようになる。	2	○	●	◎	◎	◎	
		カウンセリング	演習	1	カウンセリングの理論と技法をもとに、人が本来持っている「自ら問題を解決する力」「自ら成長する力」を支える関わりについて学ぶ。保護者との対話のロールプレイや子どもの行動の事例検討などを通して、具体的に考えながら理解を深める。また、保育者自身のメンタルケアについても考えていく。 キーワード:カウンセリング, ロールプレイ	カウンセリングの理論・技法として、来談者中心療法、認知行動療法を主に取り上げる。これらに関する知識に基づいて、子ども、保護者、保育者との実際の関わりを学ぶ。	1. 子どもの言語・非言語による感情の表出を理解し、受容することができる。 2. 問題を抱えた当事者(子ども、保護者、保育者など)の困り感に寄り添って話を聴き、必要に応じて柔軟な対応ができる。 3. 保育現場で出会う様々な問題状況において、多面的かつ分析的に問題をとらえ、見通しを持つことができる。	2	○	●	◎	●		
		障害児保育	演習	2	発達障害、知的障害、身体障害について基本事項を学んだ上で、障害のある子どもが育ち合うインクルーシブ保育の実践について、具体的に学ぶ。 キーワード:障害児	・発達障害、知的障害、身体障害の概要 ・障害児保育と特別支援教育の制度 ・インクルーシブ保育の実践	1. 発達障害、知的障害、身体障害について概ね説明できる。 2. 障害児保育と特別支援教育の制度と、共生社会構築に向けたその意義を理解できる。	1	○	●	◎	●	○	
		障害児援助技術	演習	1	障害のある子ども一人ひとりの困り感について考え、それに寄り添う保育に求められる環境構成の工夫や援助について学ぶ。 キーワード:当事者の困り感	・特別支援教育と障害福祉 ・バリアフリーとユニバーサルデザイン ・障害児者の療育と援助	1. 障害児者の当事者の立場から困り感を理解しようとする。 2. 障害児者の療育や余暇支援について具体的イメージが持てる。	1	○	●	◎	●	◎	
		教育方法論(教育学を含む)	講義	2	教育に携わるものに求められる教育方法の本質、現代の多様な教育方法、アクティブラーニング・ストラテジー、その基礎にある学習論、ICT等々について基礎的多面的に学ぶ。	現代の多様な教育方法とその基礎にある教授・学習の理論や考え方を主題として取り上げる。	種々さまざまな教授・学習方法・ストラテジーについて理解し、それぞれの場面での適切な方法を選択し工夫できる。	2	○	●	◎	◎	○	

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しな がら、コミュニケーション する能力を身につけて いる。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り 入れながら、課題解決 に向け真摯に取り組む ことができる能力を身 につけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自 律的に取り組むことが できる。 ・自らの能力を高める べく、不断に自己研鑽 に励むことができる。 ・自らの考えを伝えな がら、他者と円滑に協 働・協働して取り組む ことができ、人間関係 形成能力を身につけて いる。
教育の対象の理解と方法		教育課程論	講義	2	実務に必要な教育課程編成上の基本的な重要事項を身に付ける。	1. 幼稚園の教育目標を達成していくために、教育期間のなかでどのような道筋をたどって教育を進めていくかを明らかにした全体計画が教育課程であること。 2. 幼稚園教育の基本に基づいて、入園から修了までの長期的な見通しをもち、幼児の発達状況、幼稚園や地域の実態に即したものとなるように考慮していくこと。	教育課程について、指導計画との関連から具体的に・多面的に学び、次の事項を理解できるようになる。 1. 幼児の発達を促していくために、幼稚園教育要領に示される「ねらい」と「内容」を総合的に達成していくとはどのようなことか。 2. 発達に必要な経験とは何を意味するのか。	1	—	○	●	●	●	●
		子どもの食と栄養	演習	2	小児期の生理的特徴と必要な栄養素を摂取できる食生活について学習し、子どもたちの安全と幸福のために判断し行動する力を養う。	各発達時期(新生児、乳児、幼児、学童、思春期)の生理的特徴と必要な栄養素を摂取できる食生活について学習する。 主なテーマは以下の通り。 1. 栄養素の種類と働き 2. 栄養素の消化・吸収・代謝 3. 小児期の栄養と食生活	1. 小児期の各時期の発達発達の特徴を理解できる。 2. 栄養素の種類と働きを理解できる。 3. 適切な栄養素の摂取量を理解できる。 4. 離乳の進め方を理解し、適切な離乳食を考えることができる。 5. 幼児期の間食の役割を理解し、適切な間食の献立を作成できる。 6. 保護者に対して食生活に関する的確な助言ができる。	2	○	—	●	◎	●	
		子どもの保健 I A	講義	2	保育者は、子どもが心身ともに健康な生活を営むことができるように援助していくため、小児の健康、発育、発達の知識を習得していく。	小児に多く見られる疾病やその予防、事故に対する対応を学ぶ。また、子どもを取り巻く環境、母子保健対策について学習する。	1. 小児保健の定義と健康について学び、心身の発達過程を理解することができる。 2. 基本的な小児の発育に関する知識を習得し、子どもの発育のための課題を考察することができる。 3. 子ども各々の健康的な発育発達を援助することができるようになる。	2	○	—	●	◎	●	
		子どもの保健 I B	講義	2	子どもの健康で安全な生活を確保することは保育活動において最も重要なことである。乳幼児に多く見られる疾病とその予防、安全活動(事故予防と対応)、保健行政について学習する。	小児の健康・安全に関する基本的な知識を習得し、実践例や各種調査結果をふまえるながら理解を深める。	小児を取り巻く現状・課題について多角的な視点から具体的に・総合的に考えることができるようになる。	2	—	○	●	◎	●	
		子どもの保健 II	演習	1	保育士は、保育活動で子どもの健康と生命の保持・増進、健やかな成長のための安全を保障し、確保することが求められている。 子どもの健康対策と小児保健の動向を理解し、子どもの安全な生活環境と育児についての基本的な知識と技術について学習する。	子どものかかりやすい病気・不慮の事故とその予防方法と対処、子どもの安全な生活環境と育児についての基本的な知識と技術の習得する。	1. 子どもの健康および成長発達における基本的な評価を修得できる。 2. 子どもの健康状態の把握の視点と方法を修得し、環境調整、応急処置の基本的知識と技能を習得できる。 3. 子どもの保健活動を保育者、保護者の視点から考え、安全の確保と子どもと健康の保持増進のための具体的な方法について理解できる。	2	—	○	●	◎	●	
		乳児保育	演習	2	保育者として乳児を担当する際に求められる、乳児保育に関する基本的な知識や技術を習得する。	乳児の発達過程や特徴に関する基本的な知識の学習に加え、事例や体験学習に触れる機会も多くもち、より実践的な力を身につけていく。	1. 乳児の発達について理解する 2. 理解したことを実践に結びつけることができる。 3. 乳児保育に必要な安全で快適な環境を考え、構成する力を身につけることができる。 4. 長期、短期の保育計画を作成できる。	1	—	○	●	●	●	◎
		乳児保育の実際	演習	1	0歳から3歳未満の子どもの発達のつながりを理解し、応答的に関わる保育について学ぶ。 1. 子どもと受容的、応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助ができるようにする。 2. 子どもの発達の方向性を理解し、適切な教材を使ったり、環境構成ができるようにする。	1. 0歳から3歳未満の子どもの発達のつながりを理解する力をつける。 2. 子どもと応答的に関わる力をつける。 3. 子どもの発達や主体性に沿った環境構成や教材選びができる力をつける。	1. 受容的・応答的な関わりが、子どもの発達に及ぼす影響を理解し、その技術を獲得できる。 2. 子どもの発達に沿った環境構成や教材の具体的な提案が行える。	2	○	—	●	◎	●	●
		保育指導法	演習	1	幼児期にふさわしい生活について理解し、環境の構成や援助について学ぶ。 1. 幼稚園における保育の在り方について、発達にそって見えてくる課題を明らかにしながら、子供たちのために援助していく方向を考えていく。 2. 計画的な環境の構成の在り方について学び、実際の保育の場面に生かせるようにする。	1. 「聴きながら考え」「考えながらまとめる」を通して「整理して理解を確かなものにしていく」力 2. 保育の場での子供の生活を想定してねらいに向けた「保育を企画し」「構築していく」力	1. 幼児期にふさわしい生活の理解を踏まえ、環境構成や援助ができる。 2. 多面的な視点で観ながら、実際の場で生かせる指導計画の作成ができる。	2	○	—	●	●	◎	●
	家庭支援論	講義	2	家庭の意義と機能、子育て家庭が直面する問題とそれに対する支援体制を学び、保育者として保護者に共感しながら家庭支援を行う視点について考える。 キーワード: 子育て家庭	・現代日本における家庭の意義と機能 ・家庭支援の必要性と支援の施策 ・保育者による家庭支援の実際	1. 子育てにおける家庭の意義と機能を説明できる。 2. 子育て家庭の現状と課題を社会状況と関連させて説明できる。 3. 支援の施策と地域資源、サービスを説明できる。	2	—	○	◎	●	●	○	



科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
												人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しなが ら、コミュニケーションす る能力を身につけてい る。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り 入れながら、課題解決 に向け真摯に取り組む ことができる能力を身 につけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自 律的に取り組むことが できる。 ・自らの能力を高める べく、不断に自己研鑽 に励むことができる。 ・自らの考えを伝えな がら、他者と円滑に協 働・協働して取り組む ことができ、人間関係 形成能力を身につけ ている。
		保育内容総論	演習A	2		日々の保育は一つ一つの保育内容によって成り立つ。環境の在り方、教材の工夫、活動の発展と深まり等について、具体的な実践例や教材を紹介する。 1. 乳幼児期の遊び(活動)を発達的に理解し、興味と経験の積み重ねの結果としての活動に着目する。 2. 社会的事象に関心を払い、諸外国にも目を向け、今後の保育内容を創造的に考えていく。	授業を通じて、次の保育力を身に付ける。 1. 各領域を超えて総合的に保育内容を捉える力 2. 幼児の実態に沿って、物や人との関わりを深める視点から教材を工夫する力	1. 総合的に保育内容を捉える力を身に付けることができる。 2. 遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。	2	○	—	●	◎	◎	●
		幼児と健康(指導法)	演習B	1		幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「健康」領域に相当する授業である。 子供が健康的な生活に必要な習慣や態度を身につけるために、保育者としてどのような環境を設定し、働きかけていくべきかについて学修を進めていく。	1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「健康」領域の「ねらい」と「内容」について理解する。 2. 子供の健康に関するグループワーク(ディスカッション)を行い、その中で自分自身の意見を表現し、人の意見を聞くことで考えを深めていく。	1. 子供の健康問題を理解することができる。 2. 幼児の健康について、保育者としてどのように子供に関わり、指導していくべきかについて多面的な視点で考えられるようになる。	1	—	○	●	◎	◎	○
		幼児と運動(指導法)	演習B	1		幼児期の運動の重要性や、子供が必要な体力を身につけるために、保育者としてどのように指導していくべきかを学ぶ。	1. 幼児期の運動の重要性について理解する。 2. 模擬授業を通して、運動遊びに関する指導法や、環境設定、リスクマネジメントについて学ぶ。	1. 子供の発達段階に応じた運動遊びの指導法や環境設定について、多面的な視点で考えられるようになる。 2. 運動遊びにおける保育者としての役割を理解し、保育者に必要な知識や心構えを身に付ける。	2	○	—	◎	◎	●	◎
		生活と遊び(指導法)	演習B	1		子どもが他者と共に過ごしたり、遊ぶことによって、自立心を育み、人と関わる力を養うために、保育者として支援すべきこと、またその技術について学ぶ。 1. 幼児を取り巻く人間関係の現代的課題を理解する。 2. 幼児が集団の生活を通して、他者との関りを深める中で自己を発揮し、思いを主張し、互いに折り合いをつけながら協同性を育てていくように支援する方法を学ぶ。	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を把握する。 2. 「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」をテーマに具体的な事例を基に考える力をつける。	1. 「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」について、発達と合わせて説明できる。 2. 幼児の社会性の発達に沿って、教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。	1	—	○	◎	◎	●	●
		幼児と環境(指導法)	演習B	1		領域「環境」のねらい及び内容を理解し、具体的な指導場面を想定した環境構成や教材について学ぶ。また身近な環境を活用した遊びを実際に体験したり、情報機器などを活用した教材研究、模擬保育などを行う。 キーワード: 身近な環境	自然事物、物の性質、数・図形等についての幼児の認識・概念とそれに関連する活動・遊びを主題として取り上げる。 1. 「環境」を通じた保育・教育 2. 応答的な環境設定 3. 学生自身が様々な環境を「体験」する。	1. 応答的な環境構成を行うことができる。 2. 自ら体験することでおもしろさを感じることができる。 3. 感じたことを自分なりに表現して、他者に伝えることができる。 4. 設定した環境から子どもの学びを予想することができ、指導案に反映することができる。	2	○	—	◎	●	◎	●
		幼児とことば(指導法)	演習B	1		乳幼児がことばを獲得するまでの道のりや、それを支える保育者のかかわり、環境構成等について学ぶ。	子どもの豊かなことばをはぐむためには、まず保育者自身のことばを豊かにすることが大切である。通信機器の発達・普及により、顔と顔を合わせながら、伝え合い、豊かに表現する力が乏しくなったともいわれる今、改めてことばについて見つけ、考える機会にしていく。	1. 子どものことばの発達を支えていくために必要な知識・技能を習得する。 2. 保育者として、また社会人として必要とされる言語力、表現力、語彙を身につけ、日常生活の中でつかえるようになる。 3. 保育教材を研究し、実践に活かせるようになる。 4. 様々なコミュニケーション手段を獲得し、使えるようになる。	2	○	—	●	●	◎	●
		ことばの教材(指導法)	演習B	1		幼児が経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞くこととする意欲や態度が育つように支援するため具体的な指導場面を想定して保育を構想する。 キーワード: 言葉	子どもの発達段階と興味に合わせて保育を構想し、様々な言葉に関する教材を設定できるように学ぶ。	1. 領域「言葉」のねらい及び内容について理解できる。 2. ことばを育てるさまざまな教材について知る。 3. 子どもの発達に応じた教材を選定・構想する力が身につく。 4. 指導案を作成し、模擬保育を行うことができる。	1	—	○	○	●	◎	○
		幼児と音楽(指導法)	演習B	1		受講者自身が音楽による活動を体験し、自然体で存在する音楽表現を再認識した上で、子どもの表現活動の理解を深めていく。	子どもの立場から音楽表現について考える。また、模擬実習を通して保育者の姿を考える。	自らが音楽を楽しむ活動を体験することによって、子どもの音楽表現について理解を深めることができる。そして保育者が子どもにとって良き理解者であり、なおかつ豊かな表現者であることが不可欠であることを理解しながら、保育者としての豊かな表現力を身に付けていくことができる。	1	—	○	●	◎	◎	◎
		リズム(指導法)	演習B	1		ダルクローズが考案した音楽教育・表現教育のメソッド「リズムック」。「音楽と動き」の関係を体験し、音楽表現活動や身体表現活動の心地良さ、意義深さを感じていく。その体験から得た感性を生かした指導法を考えていく。	音と動きの教育を考える。子どもの表現から私たちの表現を発展させ、「音や音楽」「自分自身の内面」に素直に向き合う。	平面的でなくエネルギーの内在于る音楽表現や身体表現を意識することによって、生き生きとした表現力を身につけることができる。また、「静けさ」の中にある大きなエネルギーを感じるなど柔軟な感受性を育むことができる。	2	○	—	●	◎	◎	◎

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しな がら、コミュニケーション する能力を身につけて いる。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り 入れながら、課題解決 に向け真摯に取り組む ことができる能力を身 につけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自 律的に取り組むことが できる。 ・自らの能力を高める べく、不断に自己研鑽 に励むことができる。 ・自らの考えを伝えな がら、他者と円滑に協 働・協働して取り組む ことができ、人間関係 形成能力を身につけ ている。
保育内容の研究		幼児と絵(指導法)	演習B	1	1. 幼児教育における「表現」領域の中の造形活動(主に描画表現)について、その発達段階の特徴を学ぶ。 2. その知識を、鉛筆を使った描画体験や色彩を用いた共同制作をととして、より実感の伴ったものとしていく。	保育者として、子どもの表現活動に対峙する際に必要な能力を獲得する。	1. 幼児の描画活動の発達について理解を深め、幼児の表現活動に対峙した時、子どもの身体的感覚や創造的感覚の在り様や状況を的確に「分析・判断」できる。 2. 造形活動の主体は、常に子どもの側にあることを理解し、このカリキュラムで得た知識を、幼児の発達段階に即した環境を構成するために生かすことができる。	2	○	—	●	●	◎	
		造形表現(指導法)	演習B	1	1. 子どもの造形活動における物的環境(素材・道具)への理解を深めるために、主に平面表現に用いられる多様な技法を紹介する。 2. グループワークによる製作体験をととして、意見交換をし協働・協働して活動する力を身につける。	1. 造形表現における技法の可塑性を理解する。 2. 子どもの発達段階に即した、造形教材の多様性について理解する。	1. 幼児の表現活動を促す「きっかけ」をつくるため、みずからのぞうけいかつどうの経験や素材・道具に関する知識をいかすことができる。 2. 発達段階に即した造形表現の活動を「企画・創造」できる。 3. 幼児の造形表現にあたり、助言者であるだけではなく、共同制作者として子どもたちと作る喜び・楽しみを分かち合うことができる。	2	—	○	●	◎	◎	
		幼児音楽教育法	演習B	1	幼児の表現活動や音楽表現の特徴を理解し、幼児の音楽活動を支援するために必要な基礎技術を学ぶ。	前半は手遊び、歌遊び、音遊びなど様々な音楽活動のレパートリーを充実させ、後半は模擬保育を中心に授業を進める。	1. 手遊び、歌遊び、音遊びなどの様々な音楽活動のレパートリーを広げることができる。 2. 保育士・幼稚園教諭として必要な音楽の指導力を身につける。	2	—	○	◎	◎	●	●
		社会的養護内容	演習A	2	本授業では、被虐待児の実質的な受け皿となっている児童養護施設を中心に施設養護の特性と実際を学ぶ。 児童養護施設の実例を通して、児童の問題や課題、家庭支援、自立支援などソーシャルワークの視点にたつて考えを深めていく。併せて、国が推進している里親やファミリーホームについても学ぶ。	1.平成27年度、児童相談所が対応した児童虐待相談件数は10万件を超え過去最多であること。 2.児童虐待死は4日に1人の割合で発生していること。 3.児童養護施設や乳児院等の児童福祉施設や里親等で約4万6千人の子どもたちが生活していること。	1.児童養護施設等の現状と課題を学び、施設で暮らす児童やその家族への理解を深めることができる。 2.被虐待児の支援のあり方等、保育士として必要な実践的知識や技術の獲得、向上を目指すことができる。 3.他の専門職との連携を図ることの重要性を理解できる。 4.施設保育士の倫理や専門性について理解できる。	2	○	—		●	◎	◎
		保育相談支援	演習B	1	保育所や施設で求められる相談支援について、理論だけでなく、実際の支援状況を例にとりながら、現場で役立つ知識や技術を学ぶ。	保育所では、平成20年4月に施行された保育所保育指針で「全ての子育て家庭のために」支援をすることが明記され、地域の保育相談支援も保育士の役割となっている。そのための幅広い知識と援助技術を修得することが求められる。	保育相談支援の意義・基礎を学び、保護者への適切な対応ができるようになる。	2	—	○	◎	●		
		教育実習(事前事後の指導を含む)	実習A	5	実習を通して幼児理解を深め、実際に幼稚園で教師として勤務できる専門性を身に付けることを目標とする。 【1年次】 本科目の真意は幼児理解にある。子ども自身がどのような存在なのかを愛情深く、体験を通して理解し、教育観を形成することにより、これからの幼児教育の基礎を築く。 【2年次】 大学で学んだ理論や指導方法等を基礎に、子どもと直接触れ合う生活の中から子どもの発達に即した保育の在り方について理解を深める。	【1年次】 本科目は、常磐大学幼稚園を実習の場として行われる。幼稚園とはどのようなところであるか、子どもはそこで、どのような生活をしているのかなど入門的な学習に加え、保育者としての心構えを身に付ける。 主に見学、観察実習の形をとるが、必要に応じて参加実習も加わる。このように実習の形態は入門的、あるいは、概況を知るといって実施する。 【2年次】 事前指導では学外実習への意識や意欲を高めるとともに、幼稚園教育の在り方について正しい理解を図る。 事後指導として実習後に行う反省会では、実習を通して捉えてきた保育者に求められる資質について協議を深め、自分の保育観・教育観を確立していく。	【1年次】 1.実習を通して幼児理解をし、実際に幼稚園で教師として勤務できる専門性を身に付けられる。 2.事前指導および実習を通して、保育に関する基礎・基本を身に付け、子どもたち一人ひとりの個性を把握し、保育・教育活動に反映できる力を身に付けられる。 3.日誌を記入することから、「幼児を理解する力」「整理する力」「考える力」「まとめる力」「書く力」「伝える力」を身に付けられる。 【2年次】 1. 2年次の講義および学外での実習を積み重ねることによって、子どもの気持ちを理解し、受け止め、子どもたち一人ひとりの個性を把握し、保育・教育活動に反映できる。 2.保育者として重要な力を習得する。さらに、自ら保育を「企画し」「判断し」「構築する」ことのできる応用能力と協働できる力を身に付けられる。	1	○	○	◎	●	◎	●
		保育・教職実践演習(幼稚園)	演習A	2	主に「教師論」「個と集団を育てる学級経営」「保育者としての実践力の向上」をテーマとして授業を行う。今までの学修・実習体験をもとに、さらに視野と知見の育成及び実践力の向上を目指す。	主に「教師論」「個と集団を育てる学級経営」に関する内容「保育者としての実践力の向上に関する内容」について学ぶ。	1. 理想とする保育者像を具体的にイメージして、それに近づこうと努力できる。 2. 個と集団を育てる学級経営、保護者への対応、安全計画・保健計画に関して実践的に学び、活用できる。 3. 保育現場を想定した環境で演習を行い、実践力を身につけ、それを応用できる。	2	—	○	●	●	●	●
	保育実習 I	実習A	4	本科目は、「保育実習 I (施設)」および「保育実習 I (保育所)」にあたる科目である。 1年生2月に「保育所以外の児童福祉施設における実習」、2年生6月に「保育所における実習」の2施設で実習を実施する。	保育所およびその他の児童福祉施設の生活に実習生として参加し、乳幼児や入所児への理解を深めると共に、保育所およびその他の児童福祉施設の機能と保育士の職務について学ぶ。	1. 実習施設について理解できる。 2. 一日の生活の流れを理解できる。 3. 観察や一緒に遊ぶことを通じて乳幼児の発達を理解できる。 4. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得できる。 5. 保育士の仕事についての理解を深められる。	1	○	○	●	●	●	●	



科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
											人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しなが ら、コミュニケーションす る能力を身につけてい る。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り入 れながら、課題解決に 向け真摯に取り組むこ とができる能力を身に つけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自 律的に取り組むことが できる。 ・自らの能力を高めるべ く、不断に自己研鑽に 励むことができる。 ・自らの考えを伝えなが ら、他者と円滑に協調・ 協働して取り組むこと ができ、人間関係形成能 力を身につけている。
		保育実習指導Ⅰ	演習A	2	1年生の2月に「保育実習Ⅰ(施設)」および、2年生の6月に「保育実習Ⅰ(保育所)」を実施するために受ける授業である。	保育所および保育所以外の児童福祉施設で実習するために、実習生としての心構えをもち、資質を向上させ、必要な知識・技能を修得することを目的としている。	保育所および保育所以外の児童福祉施設の乳幼児・利用者理解、教材研究、指導案の立案等、「保育実習Ⅰ(施設)」および「保育実習Ⅰ(保育所)」を行う上で必要となる基本的な知識・技能を習得し、現場で実践することができる。	1・2	○	○	●	●	●	●
		保育実習Ⅱ	実習A	2	2年生の7月下旬～8月上旬に、保育所において10日間実施する。	「保育実習Ⅰ」で得た反省や課題をふまえ、より深く、かつ実践的・総合的に保育について学習する。	家庭や地域との連携、特別な配慮を必要とする子どもや保護者への支援等、保育士の仕事を総合的に理解し、現場で実践できる力を身につけられる。	2	○	—	●	●	●	●
		保育実習指導Ⅱ	演習B	1	2年生の8月に「保育実習Ⅱ」を実施するために受ける授業である。	「保育実習指導Ⅰ」および「保育実習Ⅰ」で得た学習内容をさらに深めると共に、個々に応じた援助のあり方、集団と個の保育、家庭との連携等、保育士としてのより専門的な知識・技術の習得を目指す。	1. 「保育実習指導Ⅰ」および「保育実習Ⅰ」で得た反省や課題を踏まえ、より深く、かつ実践的・総合的に保育について理解できる。 2. 家庭との連携、特別な配慮を必要とする子どもや保護者への支援等、保育士の仕事を総合的に理解し、実習生として現場で実践できる力を身につけられる。	2	○	—	●	●	●	●
		保育実習Ⅲ	実習A	2	保育実習Ⅰでの学びを基礎として、児童福祉施設等での実習を積み重ねる。	・障害児者施設、または児童養護施設、乳児院において90時間の実習を行う	1. ソーシャルワーク実践を通して施設の実践的役割を理解できる。 2. 施設保育士の専門性について説明できる。	2	○	—	●	◎	●	●
		保育実習指導Ⅲ	演習B	1	児童福祉施設等で実施する保育実習Ⅲの事前・事後指導。	・保育実習Ⅰの振り返りと課題の明確化 ・施設理解と実習の目標設定 ・振り返りと課題の明確化	1. 施設や、その入所児・利用者について現状と課題を理解できる。 2. 実習での学びの目標を明確にし、実行、振り返りを通して自己の成長を自覚できる。	2	○	—	○	●	●	◎
		国語	講義	2	授業を通じて、保育者/社会人としてふさわしい言葉の使い方を身につけ、自分自身の意見の表現・他者との密なコミュニケーション等に活用できるようになることを目指す。	保育現場においては、日常の仕事のほとんどは、言葉(特に話し言葉)を用いて行われることになる。言葉の使い方の巧拙が子どもに与える影響は大きい。	1. 保育者としての人間関係調整に必要な基礎的な日本語の力を養うことができる。 2. 文化と言語の関わりを理解して、保育教育活動の中で役立て、子どもの個性を生かすことができる。 3. 正しい敬語の使い方を身につけ、社会人として保護者への対応(助言・支援等)に生かすことができる。	1	○	—	●	○	◎	○
		児童文学	講義	2	児童文学の基本的性格を理解し、「言葉」領域(一部「環境」領域に及ぶ)についての保育の基礎を身に付ける。その際、児童文学に不可避に現れる2つの側面を軸に検討を進める。 1. 大人から子どもへの働きかけ 2. 世代を超えた継承・伝承	1. 児童文学と一般文学の差違と、あるべき児童文学の姿についての理解 2. 児童文学の内容面の面白さとその教育への応用 3. 児童文学の言語面の面白さとその教育への応用 4. 児童文学と地域の伝承や古典文学との関わりとその教育への応用	1. 児童文学における、言葉/内容の両面の面白さを理解する。 2. 児童文学を形成している諸要素を理解する。 3. 理解した内容をもとに、適切に自己の考えを形成し、表現できる。	1	○	—	●	○	◎	○
		身体活動論	講義	2	いつまでも元気に過ごすには、生活習慣病と呼ばれる症状や疾病を予防することが必要である。授業では、健康づくりのコツを学生たちに伝えると同時に、次代を担う子どもたちの健康づくりについて解説する。	1. 生活習慣病とその予防 2. 健康状態の把握方法 3. 子どもの運動発達の概要 4. 子どもの健康づくりのための身体活動	1. 生活習慣病を予防し、健康を維持・増進するためには、どのような工夫をすればよいかを、理解できるようになること。 2. そのための工夫を、意識的に生活の中に取り入れる態度を身につけること。	1	○	—	◎	◎	◎	◎
		音楽の基礎	演習B	1	楽譜を読む上で必要不可欠である楽典の基礎およびソルフェージュを学ぶ。初見視唱や初見視奏および基本的なコード伴奏を扱う。	膨大な数の子どもの歌を習得するには、耳からではなく楽譜から音楽をイメージするためのソルフェージュ力を身につけることが求められる。そのために、楽典の他、初見視唱や初見視奏および基本的なコード伴奏を習得する。	1. 初見視唱や初見視奏の力を身につけ、基本的なコードネームによる伴奏法を習得できる。 2. 子どものうたを指導する力を身につける。 3. 楽典の基礎を理解する。	1	○	—	◎	○	◎	◎
		器楽Ⅰ	演習B	1	ピアノの基礎技能を学ぶ。	バイエル、ブルグミュラーなどのピアノ基礎教材を用い、ピアノの基礎技能を学ぶ。	1. 保育者に必要なピアノ演奏の基礎技能を高める。 2. 正しく楽譜を読むことができる。	1	○	—	●	○	◎	○
		器楽Ⅱ	演習B	1	「器楽Ⅰ」の学習を継続し、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	「器楽Ⅱ」においても、子どもの歌を教材とし、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	1. 保育者に必要なピアノ弾き歌いの技能を高め、歌のレパートリーを増やす。 2. 正しく楽譜を読むことができる。	1	—	○	●	○	◎	○
		器楽Ⅲ	演習B	1	「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「器楽Ⅳ」との連関を図り、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	「器楽Ⅲ」においても、子どもの歌を教材とし、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	1. 保育者に必要なピアノ弾き歌いの技能を高め、歌のレパートリーを増やす。 2. 正しく楽譜を読むことができる。	2	○	—	●	○	◎	○
		器楽Ⅳ	演習B	1	「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「器楽Ⅲ」との連関を図り、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	「器楽Ⅳ」においても、子どもの歌を教材とし、ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ。	1. 保育者に必要なピアノ弾き歌いの技能を高め、歌のレパートリーを増やす。 2. 正しく楽譜を読むことができる。	2	—	○	●	○	◎	○

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
												人間性豊かで実践力 のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しな がら、コミュニケーション する能力を身につけて いる。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り 入れながら、課題解決 に向け真摯に取り組む ことができる能力を身 につけている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自 律的に取り組むことが できる。 ・自らの能力を高める べく、不断に自己研鑽 に励むことができる。 ・自らの考えを伝えな がら、他者と円滑に協 働・協働して取り組む ことができ、人間関係 形成能力を身につけて いる。
保育者の知識と技能		声乐Ⅰ	演習B	1		1. 発声の仕組みを理解し、正しい発声法を身につける。 2. 子どもの歌を学習する中で、音楽的要素を理解し、音程、リズム、フレーズ感を習得していく。 3. 楽曲の背景や歌詞を読み取り、表現力、感受性を養うとともに、その言葉ひとつひとつを音楽にのせていく歌唱の実践を積む。	1. 発声の仕組み、身体の使い方を理解し、歌唱による表現力を身につける。 2. 子どもの歌のレパートリーを増やし、保育現場に生かしていく。	1. 聞き取りやすい発声を継続させるために、呼吸法と発声法を習得できる。 2. 子どもたちの声を読み取る力、聴き取る力、そして表現する力を養うことができる。 3. ステージを創作し発表することを通して、協調性を養い保育現場に活かせる企画力を身につけることができる。	1	—	○	●	○	◎	◎
		声乐Ⅱ	演習B	1		「声乐Ⅰ」に引き続き、学習・トレーニングを行っていく。	1. 子どもたちのために、また保育者として日々明るく聞き取りやすい発声を継続させるために基礎訓練を積む。 2. 楽曲を通してソルフェージュ力を高めるとともに聴衆の心に届く歌唱を目指す。	1. 「声乐Ⅰ」に引き続き、さらなる歌唱力を身に付け、呼吸法と発声法を習得できる。 2. 教育者・保育者としての表現力向上させることができる。	2	○	—	●	○	◎	◎
		合唱Ⅰ	演習B	1		1. ステージ発表に向けて合唱の基礎を学び、発声法・呼吸法の学習・トレーニングを行っていく。 2. アンサンブル感覚を身につけるとともに、聴衆の心に響く歌唱を目指す。	合唱の基礎、発声法・呼吸法を学び、声によるアンサンブルを楽しむ。	1. 合唱を通して協調性、コミュニケーション力を高めることができる。 2. 合唱アンサンブルにおいて、集団の中での個を大切にすることを考えることができる。 3. 人の声によって生まれるハーモニー・ひとつのものをより上げることの楽しさ、厳しさ、素晴らしさを体感し、それらの経験を教育・保育の現場で活かせる実践力を身につけることができる。	2	—	○	●	○	◎	●
		合唱Ⅱ	演習B	1		「合唱Ⅰ」に引き続き、学習・トレーニングを行っていく。	教育・保育の現場に役立つよう、合唱を通して聴衆の心に響く歌唱を目指す。	1. 発声や表現力の成長のみにとどまらず、合唱を通して協調性、コミュニケーション力を高めることができる。 2. みんなでつくってこそ生まれるハーモニー・ひとつのものをより上げることの楽しさ、厳しさ、素晴らしさを体感できる。	2	—	○	●	○	◎	●
		平面美術構成	演習B	1		幼児が使用しやすい描画材料(鉛筆・クレヨン等)を用い、様々なテーマにそって、自らのイメージの基に、平面(絵画)表現をおこなう。	美術を得意とするものはその興味をさらに広げ、不得意なものを作り出す喜びを知ることのつなげていく。	1. 各自が主体的に描画体験UIすることで、観察することの意味、イメージを視覚化することの面白さが理解できる。 2. 幼児が使いやすい描画材料の特性を理解し、幼児の表現活動に適した環境を構成することにつなげられる。	1	○	—	◎	●	◎	
		立体美術構成	演習B	1		造形的に扱いやすい土粘土を主に使用し作品制作する。選んだテーマによって変化する内容や造形技術の成長により、自分自身の立体表現の可能性や理解を深めていく。	基本テーマを「生物」とし毎授業ごとにサブテーマを設定する。自然の中から生まれた生物の本来の美しさやバランスを知るとともに、素材の特性を活かし、試行錯誤しながら制作して得られる充実感や喜びを感じる。	1. 幼児の個性を尊重し自由に表現をおこなえる環境を整えられる豊かな包容力を身につけることができる。 2. 造形政策をすることとして、立体表現と造形技術の基礎、立体的捉え方や基本的な知識を身につけることができる。	1	—	○	◎	●		
		手作り玩具(指導法)	演習B	1		簡単な構造の玩具を制作し、使って遊ぶ演習を行う。	保育者として子どもの「あそび」の場を広げるきっかけとなる玩具の在り方について理解する。	1. 幼児とともに簡単な構造の玩具をつくり、子どもたちに「作る喜び」と「遊ぶ楽しさ」を時間させることができる。 2. 身近な素材(廃品等)を用い、道具の適切な使い方を知り、遊びの場を構成することができる。	2	—	○	◎	●	●	
		基礎体育Ⅰ	演習B	1		縄跳びとダンスを通じた学習	【縄跳び】定められた課題を練習し、いろいろな跳び方をマスターする。 【ダンス】自分の身体と向き合いながら、リズムカルに身体を動かすことを体験する機会となる。	【縄跳び】努力を積み重ねることにより、一步一步前進することを体験しながら、縄とジャンプのタイミングを合わせ、リズムカルに跳べるようになること。 【ダンス】リズムに合わせた体の動きができるようになること。	1	○	—	●		◎	
		基礎体育Ⅱ	演習B	1		「子供の運動遊びに関連したプログラム」と「身体表現領域を学習するプログラム」の2種類で構成する。様々な運動種目の中で、自分の得意な分野はより成長させ、苦手な分野は克服し、子供の前で実践できるように学ぶ。	【子供の運動遊び】幼児期に行われる運動遊びを体験しながら、幼児期の身体活動を考える視点を増やし、その指導につながるよう授業を進めていく。 【ダンス】基礎体育Ⅰで学んだことをベースに「スピード感」と「柔軟性」を高めていく。	1. 運動を行う中で、自身の身体的能力を高めていき、子供たちに運動を指導することを意識しながら多面的な視点で運動を捉えることができる。 2. 【子供の運動遊び】保育者として、幼児の身体活動に携わる際の基本的留意点を理解することができる。 3. 【ダンス】速いテンポの曲に合わせて動くことで身体能力を上げる。後ろツーステップ等の技術を習得できる。	1	—	○	◎	○	◎	●
		総合体育	表技	1		屋内球技(バレーボール及びバドミントン)、硬式庭球、ダンス、体力トレーニングの中からひとつの CATEGORY を選択し、実技の指導を受ける。	1. スポーツ技術の習得 2. 共に活動する仲間との協力	1. 共に活動する仲間たちと協力して練習や試合を行う態度を身につけ、楽しむスポーツ活動を行うことができるようになること。 2. 準備や後片付けも含め学習活動を通じて、人任せにせず、率先して行う態度を身につけることができる。	2	—	○	◎			●
		英会話Ⅰ	演習B	1		会話の目的や文脈に沿って、表現する。意思表示をするなど、英会話におけるコミュニケーション方法の初歩を身につける。	1. 自己紹介や自身の考え 2. 家族や身近な話題 3. 仕事や体調、等についてワークシートの作成と口述	学んだ言葉に基づき、思いを表明する、またクラスメートへのスピーチや質疑応答を行うことができる。	1	○	—	◎	●		
		英会話Ⅱ	演習B	1		「英会話Ⅰ」の学習を継続し、会話の目的や文脈に沿って、表現する。意思表示をするなど、英会話におけるコミュニケーション方法の初歩を身につける。	1. 国や言語 2. 居場所や旅行の予約 3. 日本や将来、性格、といった事象についてワークシートの作成と口述	「英会話Ⅰ」との関連により、学んだ言葉に基づき思いを表明する、またクラスメートへのスピーチや質疑応答を行うための英語技術が身につけている。	1	—	○	◎	●		

科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	授業概要・キーワード	授業科目の主題 (授業科目の中心となる 題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標 (到達目標)	学年	春 セメ	秋 セメ	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理 解能力・コミュニケー ション能力	3. 論理的思考力・ 課題解決力・創造力	4. 自律性・協働性
												人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を 目指していくため、幼児 教育・保育に関する幅 広い専門的知識および 技能を有している。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、幅広い専門 的知識および技能を活 用し、物事を多角的に 捉え、子どもたち一人 一人の個性を把握しなが ら、コミュニケーションす る能力を身につけてい る。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、情報や知識 を多面的な視点で論理 的に分析・整理して捉 え、新しい発想を取り入 れながら、課題解決に 向け真摯に取り組むこ とができる能力を身につ けている。	幼児教育・保育に求め られる多様な教育課題 に対して、主体的・自律 的に取り組むことがで きる。 ・自らの能力を高めるべ く、不断に自己研鑽に 励むことができる。 ・自らの考えを伝えなが ら、他者と円滑に協調・ 協働して取り組むこと ができ、人間関係形成能 力を身につけている。
		コンピュータ 演習Ⅰ	演習 B	1	1	コンピュータの基本的な使い 方を、実習を通じて体験的に 習得していく。コンピュータを 実際に使いながら、文章 (Word)・グラフィックスの作成 (ワードアート、ペイント、デジ タルカメラ・携帯電話の画像)、イ ンターネットによる情報の取 集・整理、表計算(Excel)など の技術を身につけながらさま ざまな課題に取り組む。	コンピュータを使用した以 下の操作を学ぶ。 1. 文書作成 2. インターネットによる情報 収集 3. 表計算とグラフ作成	1. 写真やイラストを挿入したビ ジュアルな文書が作成できるよ うになる。 2. インターネットを利用した情 報収集や表計算ソフトを使った グラフ作成など、課題・報告書 作成のためのパソコン操作を習 得し、課題に対応できる。	1	○	—	●		◎	
		コンピュータ 演習Ⅱ	演習 B	1	1	代表的なプレゼンテーション ソフト「PowerPoint」を用いて、 「自己アピール」や「電子紙芝 居」の制作に取り組むことによ り、プレゼンテーションソフトに よる資料作成の基本スキル、 および効果的なプレゼンテー ションの技法について学ぶ。	「PowerPoint」の基本操作を 身につける。	1. プレゼンテーションソフトの 基本操作と機能を習得できる。 2. 箇条書きや図表を活用し て、自分の考えを相手に効率的 に伝えることができる。 3. 図や画像、アニメーションを 活用して、視覚効果の高いプレ ゼンテーションを行うことができ る。 4. プレゼンテーションに向け て、十分な事前準備を行うこと ができる。	1	—	○	●		◎	
		児童文化(言 語表現)	演習 B	1	1	授業を通じて、言葉の教育を 可能とするための方法として の、歌・詩・絵本等この児童文 化を取り上げて学び、さらにそ の背景にある人間の文明・文 化全体への理解も深める。 これは、保育者に必要な人 間そのものへの興味・関心を 高め、子どもの個性を生かし、 保育者としての得意分野を増 やすことを企図する。	1. 児童文化とは何か。 2. 児童文化における言語活 動のあり方と意義 3. 児童文化の教育での活用 法の研究と演習形式での実 践	1. 言語教育の材料・方法として の、児童文化についての知識を 深め、子どもの個性を伸ばす形 で、教育・養育活動に反映でき る。 2. 文明・文化全体への理解を 深め、説明できる。 3. 人間存在の尊さと面白さ について理解を深め、説明でき る。	1	—	○	●	◎	◎	◎
		課題研究	演習 B	2	2	実習や保育現場で実際に子 どもたちと行う活動に対して役 立てられるよう、様々な角度か ら学習する。	子どもの豊かな生活を支える ために必要な幅広い知識 や技術を習得したり、援助の あり方を考えたりしながら、保 育実践力を高めていく。	1. 計画、準備、実践、記録とい う一連の流れを自ら考えて実践 し、保育現場に応用できる。 2. 新しい気づきや多面的な視 点、判断力・協働力を身に付け ることができる。 3. 保育者としての資質を実感 をもって理解し、実際の場で活 かすことができる。	2	○	○	●	◎	●	